

03 第3回連携部会 まちの畑の価値向上とは？

平成 30 年 11 月 8 日（木）シェアオフィス「ノクチカ」の会議室にて、農業者、不動産事業者など合計 21 名が集まり、「まちの畑の価値向上とは？」をテーマに意見交換を行いました。

都市農業では、農地と住宅地が隣接するため、営農しづらいという点が課題のひとつとなっています。

そこで、農業者は営農しづらさを解決するため、不動産事業者は地域の不動産価値を高めるための意見をぎゅくばらんに出し合い、農業者、不動産事業者の相互理解を深めると共に、まちの畑の価値を高めるためのアイデアを検討しました。

意見交換の様子



懇談の様子



農業 × 不動産 コミュニケーションでまちの畑の価値を高める

農地もまちの魅力として捉えることで、まちの畑の近くに住みたい人も増やしていこう！

物件の隣が畑のときは、賃貸契約の際に特記事項で説明をしている。
・騒音や土ぼこりなど
・将来の土地利用の変更の可能性など

不動産の現状とアイデア

今後、興味のある不動産事業者と農家で意見交換が出来る機会があるとよい。

物件の隣が畑だと、日当たりや景観が良い、というメリットがある。
・これからの時代、近隣環境の良さで物件を選ぶ人が増える可能性も。

部屋を内見にきた人に畑や直売所などの地域資源が分かるマップを渡すと好評だった。情報が分かれば不動産業からも PR できる。

自宅の隣の畑を耕せたり、自宅の近くで収穫体験ができるのは魅力！

他都市では、市民農園の隣で、BBQ ができる賃貸住宅が人気の物件も！



かわさき都市農業活性化 コト・モノ・ヒト News

川崎市農商工等連携推進事業



平成 30 年
12 月号

発行者：川崎市農業振興課

川崎市では、生産者と消費者の距離が近いというメリットを生かした営農や、農地の持つ多面的な機能を生かしたまちづくりが積極的に行われています。一方で、都市化の圧力や相続を契機とした農地の減少、農産物価格の低迷、担い手の減少や高齢化などの農業に関する様々な課題もあります。

これらのメリットや課題を踏まえ、農業者が、商業者、工業者など、多様な主体と連携することによって、都市農業の可能性をさらに広げることを目的に、平成 28 年度から「都市農業活性化連携フォーラム」、「モデル事業」、平成 29 年度より「都市農業活性化連携部会」を開催し、今年度はさらなる連携の可能性を広げてきました。これらの取組を紹介します。



TOPIX

01

平成 30 年度川崎市都市農業活性化農商工等連携モデル事業スタート！
4 月～

今年度のモデル事業として、4 件の新規事業と、1 件の継続事業が採択されました。各事業の取組状況をお知らせします。



02

昨年度の連携部会のアイデア検討報告会
10 月 15 日

昨年度開催した連携部会で出たアイデアを具体的に進めるために、企業へのヒアリングや実際の取組事例を報告し、意見交換しました。



03

第3回連携部会
まちの畑の価値向上とは？
11 月 8 日

農業者と不動産事業者が集まって、まちの畑の現状と課題を共有するとともに、今後の可能性について検討を行いました。



お問合せ

川崎市 経済労働局 都市農業振興センター 農業振興課 農政係
住所：〒213-0015 川崎市高津区梶ヶ谷 2-1-7 JA セレサ梶ヶ谷ビル 2 階
TEL 044-860-2462 FAX：044-860-2464

01 平成 30 年度川崎市都市農業活性化 農商工等連携モデル事業を紹介します

平成 30 年度のモデル事業は、新規事業 4 件と継続事業 1 件で、それぞれの取組が展開しています！

新規事業

早野地区「かぼちゃ加工」モデル実践事業

早野農地管理組合

生産者がかぼちゃ栽培を拡大し、素材本来の甘みを活かしたピューレに加工。市内飲食店等に販売を実施した。

- 9 月中旬に計 4 回のかぼちゃピューレの試食会を実施。
- 市内洋菓子店、レストランとのコラボにより、カワサキハロウィン特別メニューが完成し、10 月から販売を開始。



新規事業

カワサキカレーパン

一般社団法人カワサキノサキ

市内生産者、料理家、福祉法人など、多様な主体と連携しながら、川崎野菜を使ったカレーパンを開発・販売。

- トマトカレーパン 2000 個、グリーンカレーパン 1000 個分の原材料の調達、開発までを実施。
- 11 月から販売を開始。



新規事業

「くろかわのアスパラガス」ブランディング事業

トビラ株式会社

生産者のストーリーを消費者に届け、デザインで付加価値をつけることで、ブランド力を高める。

- 生産者への取材や写真撮影を実施。
- 販促POPなどの販促ツールのデザイン、制作を実施。
- 市内飲食店でアスパラを使用したメニューを提供するレストランウィークを実施予定。



新規事業

未利用資源を使った商品開発事業

NPO 法人みどりなくらし

背丈ほどに伸びてしまった竹を、ゆでて乾燥させて作る保存食「干したけのこ」を「ポイ竹」として製造、販売。

- 竹の伐採作業や製造、販売商品の袋詰めなどを実施。
- ポイ竹を使った料理の販売や試食会、レシピを付けた販売などを実施。



継続事業

じもとクリエイターによる「かわさき農のマナー UP」プロジェクト Part2

株式会社ノクチ基地

農作物の窃盗やゴミの投棄など、農へ対する不法行為に対し、じもとクリエイターのスキルを使って解決する。

- ホームページにキッズ版マナーブックを掲載予定。
- 「グッドファーマー」コーナーの追加と取材。



02 昨年度の連携部会の アイデア検討報告会

平成 30 年 10 月 15 日（月）都市農業振興センター会議室にて、「アイデア検討報告会」を開催しました。

昨年度の「農×工」、「農×商」をテーマに開催した連携部会に出席された皆さんを中心に、合計 19 名が集まり、昨年度の意見交換で出たアイデアの具体化に向けて検討した結果や試行した事例報告を行いました。



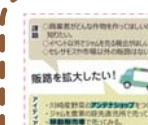
企業へのヒアリング調査

アイデアの実現に向け、企業にヒアリングを行いました。



農×エアイデア おいしい梨のわかるメガネ

- ・おいしい梨は、果汁や光学で糖度を測ったり、果実の表面の色で判別する方法があります。そこで、非破壊糖度測定器を開発している市内企業と、簡易に測色ができるカラーピッカー販売する企業の 2 社にヒアリングを実施しました。
- ・どちらもメガネを作るところまでは難しそうでしたが、それぞれの既成の機材を活かして農業活性化できた、というお話を伺いました。



農×商アイデア 販路を拡大したい

- ・販路拡大の今後の可能性として、これまでの直売所やイベントなどに生産者が自ら持ち込んで販売する方法以外にも、消費者と生産者をつなぐ仲介役となって販売する企業も増えています。
- ・そこで、ご家庭への宅配システムを構築している企業と、飲食店への配達システムを構築している企業の 2 社にお話を伺い、都市農業における地域内流通の可能性についてアイデアをいただきました。

アイデアの事例報告

アイデアであげられていた取組の実施事例を紹介しました。



農×エアイデア 野菜の自動販売機の利便性向上 株式会社アルファメディア 代表取締役 小湊氏

- ・野菜の自動販売機の利用状況を携帯等で見られたら、もっと有効活用できるのではないかと、というアイデアから、既存の自動販売機にセンサーを設置して、試作機を開発。



農×商アイデア 飲食店に野菜を使ってもらいたい！ 株式会社 GREET 代表取締役 長洲氏

- ・武蔵新城の「ビストロキュー オリエント」で、農家さんと交流しながら地元野菜を使いたいとの声をきっかけに、飲食店と農家がつながることで、お店と地元野菜のファンになってもらうイベントを企画・実施。



報告後の意見交換

- ・糖度を測る機材は、大学で研究している事例や、もっと簡単に測れるものもあるので、それを活かさないか。
- ・夏期の自動販売機の温度は非常に高熱になるため、安価に抑えつつ実現するには、工夫が必要。
- ・飲食店自らが野菜を採ると、野菜の魅力や農家の想い等を、お客さんに伝えやすい、伝わりやすい。
- ・麻生区等で実施する「つながる朝市」では、農家さんから買取りして、形のよいものはそのまま販売、規格外や傷ものなどは調理するなどして提供し、ロスができるだけないような取組を実施。
- ・川崎市内には若手農家が多く、すぐ行ける場所に野菜があることが強み。そこを PR していく必要がある。